

製品名: IKK α / β (リン酸化 Ser176/177) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04826**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	80kDa

抗原情報

遺伝子名	CHUK/IKKB CHUK; IKKA; TCF16; Inhibitor of nuclear factor kappa-B kinase subunit alpha; I-kappa-B
別名	kinase alpha; IKK-A; IKK-alpha; IkbKA; IkappaB kinase; Conserved helix-loop-helix ubiquitous kinase; I-kappa-B kinase 1; IKK1; Nuclear factor NF-kappa-B
遺伝子 ID	1147/3551
SwissProt ID	O15111/O14920
免疫原	抗血清は、Ser177 のリン酸化部位周辺のヒト IKK- α 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 151-200

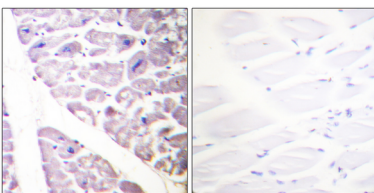
背景

この遺伝子は、セリン / スレオニンプロテインキナーゼファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、必須転写因子 NF- κ B 複合体の阻害因子であるサイトカイン活性化タンパク質複合体の構成要素であり、ユビキチン化経路を介して阻害因子の分解を引き起こす部位をリン酸化することで、転写因子を活性化します。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]。触媒活性: ATP + [I- κ B タンパク質] = ADP + [I- κ B リン酸化タンパク質]。酵素制御: リン酸化されると活性化され、脱リン酸化されると不活性化されます。機能: NF- κ B 活性化の従来の経路において IKK 複合体の一部として機能し、NF- κ B 阻害因子をリン酸化することで、阻害因子 / NF- κ B 複合体の解離を誘導し、最終的に阻害因子を分解します。NF- κ B 活性化の非標準的な経路の一部として、MAP3K14 活性化 CHUK/IKKA ホモ二量体は、RelB に関連する NFKB2/p100 をリン酸化して、NFKB2/p52 へのタンパク質分解プロセッシングと NF- κ B RelB-p52 複合体の形成を誘導します。また、NCOA3 もリン酸化します。サイトカインによって引き起こされる炎症反応中に、NF- κ B 制御プロモーターにおいてヒストン H3 の「Ser-10」をリン酸化します。PTM: MAP3K14/NIK、AKT、およびある程度 MEKK1 によってリン酸化され、PP2A によって脱リン酸化されます。自己リン酸化されます。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。I- κ B キナーゼサブファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。細胞内局在: 細胞質と核の間を往復する。サブユニット: CHUK、IKKBK、IKBKKG からなる I- κ B キナーゼ (IKK) コア複合体の構成要素。おそらく 4 つの α /CHUK- β /IKKBK 二量体が 4 つの γ /IKBKKG サブユニットと関連している。IKK コア複合体は、調節タンパク質またはアダプタータンパク質と結合して IKK シグナルソームホロ複合体を形成すると考えられる。NCOA2、NCOA3、CHUK/IKKA、IKKBK、IKBKKG、CREBBP からなる複合体の一部。少なくとも CHUK/IKKA、IKKBK、NFKBIA、RELA、IKBKAP、MAP3K14 からなる 70 ~ 90 kDa の複合体の一部。IKK- γ /NEMO および TRPC4AP と直接相互作用する (類似性による)。TRAF2 と相互作用する可能性がある。NALP2 と相互作用する。MAVS/IPS1 と相互作用する可能性がある。組織特異性: 広く発現している。、

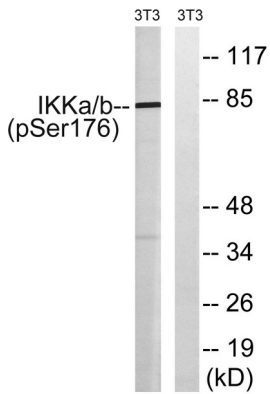
研究分野

T 細胞受容体; インスリン受容体; B 細胞抗原; 幹細胞経路; Toll 様; MAPK_ERK_Growth; MAPK_G_Protein; PI3K/Akt; NF_ κ B; タンパク質アセチル化

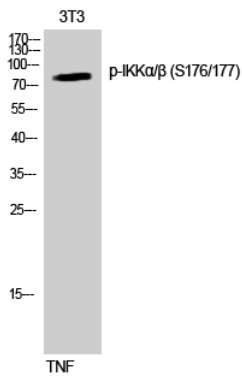
画像データ



IKK- α (リン酸化 Ser176) /IKK- β (リン酸化 Ser177) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト心臓の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



TNF 20 ng/ml 30 μ g 処理した NIH/3T3 細胞ライセートの IKK- α (リン酸化 Ser176) /IKK- β (リン酸化 Ser177) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーン
はリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



NIH-3T3 細胞のリン酸化 IKK α / β (S176/177) ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を
用いたウェスタンブロット解析